

信濃川水系河川整備計画骨子概要（千曲川）

◆頻発する水害に対応した河川整備

概ね戦後最大規模の大洪水に対し、家屋の浸水被害を防止

30年間の河川整備



昭和58年（1983）9月洪水



平成18年（2006）7月洪水

千曲川では、観測史上最大となった昭和58年9月洪水で、飯山市の3箇所
で破堤し、家屋全半壊等の甚大な被害が発生しました。

また、観測史上二番目となる平成18年7月洪水の際にも、家屋浸水被害や
堤防漏水・基盤漏水、河岸欠壊が発生しています。

今後30年間で戦後に発生した洪水に対する安全性の向上を図ります。

◆上下流バランスのとれた治水安全度の向上

水系全体でバランスのとれた治水対策の推進

信濃川水系では、極めて流路延長が長いため、上下流の治水バランスを
確保しつつ、段階的かつ着実に治水安全度の低い箇所の整備を進めること
が重要です。

整備の実施にあたっては、県境区間等の関係する河川管理者との連携・
調整を図りつつ水系全体としてバランスのとれた治水
対策を推進します。



浸水状況写真



立ヶ花狭窄部上流のせき上げ状況

平成18年（2006）7月洪水

◆危機管理体制の強化と地域防災への支援

防災情報伝達の迅速化 ～千曲川総合防災管理システムネットワーク～

水防活動や警戒避難活動の迅速な対応を支援するため、
雨量水位、洪水予測、河川カメラ画像、水防警報等の防
災情報を、千曲川総合防災管理システムネットワークに
より、市町村等へ速やかに伝達します。

あの水害は忘れない! ～街全体がハザードマップに～

災害時に住民自ら避難活動をしていただくため、水害
の危険等の啓発や対策、市町村が整備する洪水情報地図、
まるごとまちごとハザードマップの支援等を行います。

～内水被害の発生～ 排水ポンプ車出動

排水ポンプ車等の災害対策車を積極的に活用し、地域
の安全を確保するよう対応していきます。



◆河川整備による自然環境の向上

河道掘削による千曲川らしい河川環境を再生

千曲川等の高水敷には、アレチウリ、ハリエンジュ等の外来種が侵入・拡大し、
河原特有の植物が減少しています。

自然豊かな千曲川等の河川環境の再生を図るため、洪水時の冠水頻度を高め、ヨシ・
ヤナギをはじめとする水際植生などの形成を目指します。



樹木を覆いつくすアレチウリ



河道掘削後の水際に在来植物が生育

◆利水環境

ゆたかな水量をほこり、 地域に貢献する千曲川の水

千曲川の豊富な水量と急峻な地形
を利用し、約90箇所の発電所で発電
が行われ、かんがい用水として県内
約3.3万haに及ぶ耕地に潤いを与えて
います。

水道用水は長野市、上田市、中野
市等に供給され、沿川の大切な飲料
水として利用されています。

安定的な水の供給のために

平成6年に発生した渇水では、大町ダム
から不特定用水や水道用水の補給を行い渇
水被害の軽減に寄与しました。

今後も地域の
安定した水の供
給のため、大町
ダム管理を適切
に行ってまいり
ます。



大町ダム